

# 安さ競争かすむ再生エネ

4月から一般家庭でも電力の購入先を選べるようになり、電力会社間で契約競争が起きている。今のところ、アピールの中心は「安さ」。原発事故で高まった再生可能エネルギー（再生エネ）推進への思いを持つ人たちは、どのように選択すればいいのか。

▼1面参照

## ■再生可能エネルギーを電源の中心にする主な新電力会社

4月1日から供給開始予定	
水戸電力 (水戸市)	事前予約を受け付け中。茨城県中心の東電管内に供給
Loop (東京都文京区)	3月中旬に契約プラン発表。東電、中部電、関電の営業地域
みんな電力 (東京都世田谷区)	事前予約を受け付け中。4月以降は27の発電所を選択可能。首都圏中心に9都県に供給
みやまスマートエネルギー (福岡県みやま市)	事前予約を受け付け中。当面は九電管内(離島除く)に供給
2016年度中に供給予定	
トドック電力 (札幌市)	コープさっぽろの組合員の家庭が対象。6月から供給目指す
千葉電力 (千葉県八千代市)	4月の供給開始を目指し事前予約中。一般家庭向けは遅れる可能性も。東電管内
パルシステムグループ(※) (東京都新宿区)	9都県にある生協「パルシステム」組合員の家庭が対象
生活クラブエナジー (東京都新宿区)	21都道府県にある生協「生活クラブ」組合員の家庭が対象。首都圏1500世帯は6月、ほかは今秋以降の供給予定
湘南電力 (神奈川県平塚市)	事業用高圧電力の安定供給を優先。一般家庭向けは今秋以降の見込み

〔27日現在で「パワーシフト・キャンペーン」の基準を満たし、2016年度中に供給開始を目指す事業者の一覧。※の事業者はグループ内の子会社が予定。()は会社所在地〕

「目標に向けて、契約は順調に推移している。顧客の関心は、極めて高い」。大阪ガス(大阪市)の広報担当者は話す。

同社は一般家庭の契約者に多い「従量電灯A」を対象に、ガスと電気のセット割と長期契約割の料金プランを用意。シンプルでわかりやすい料金プランにする

ことで、関西電力からの顧客奪いに力を入れる。2016年度に20万世帯、20年度末までに70万世帯の顧客獲得が目標だ。

4月の全面自由化では関西電力など従来の電力会社に加え、大阪ガスのような別業界から新電力会社が参入。23日現在で国に認可された新電力は199社、申請は

306社に上る。各社は既存の電気料金より、どれだけ安くなるかを示すシミュレーションを積極的に示している。一方、関電では高浜4号機が再稼働した26日、八木誠社長は記者会見で「5月1日に電気料金を値下げする」と表明した。

## 業者 電源表示義務なし

価格競争の中でかすんでみえるのが、東京電力福島第一原発事故後に機運が高まった、再生エネの割合を高めようという視点だ。電力会社を自由に選べるようになれば、原子力や二酸化炭素排出の多い発電所を持つ会社を避け、再生エネに力を入れる会社を支援できるようになる、と期待

されていた。

国が認可した電力事業者の1覧は資源エネルギー庁のホームページに出ている。ただ、どこから電源を調達しているかを示す「電源構成」を開示しているのは、以前から発表していた大手を除くとほとんどなく、消費者が再生エネに力を入れる事業者を調べるのは困難だ。

情報が入手しにくい一因は、国が電源開示の義務化を見送り、事業者の判断にゆだねたためだ。経済産業省は、小規模な新電力にとって負担が大きいなどを理

由にする。

全電源に占める再生エネの割合が2割超のドイツでは、電源の100%が再生エネという事業者もあり、環境意識が高い人たちが選んでいる。国際環境NGOグリーンピース・ジャパンの柏木愛さんは「少しぐらい高くても環境にいい電気がほしい、という人は日本にもいる。現状は関心を持っている人ほど選ぶに選べない」と話す。河野太郎・消費者担当相は23日の記者会見で「経産省には電源開示をするように申し入れをしている」と述べた。

## 独自調査の団体も

再生エネを応援したい場合、どうすればいいのか。

ネット上の家電などの総合比較サイト「価格ドットコム」や電気料金専門の「エネチェンジ」といった比較サイトをみると、料金以外に電源構成や二酸化炭素排出といった項目もある。ただ、現在のところ、両サイトとも掲載中の電力会社は大手中心で30社以下。環境項目に回答していない会社も目立つ。

逆に料金の表示は一切せ

ず、独自の環境基準をもとに推薦する電力会社を紹介しているのが、環境保護団体などでつくる「パワーシフト・キャンペーン」のホームページだ。事務局は公表資料をもとに再生エネに対する各社の取り組みを調査し、事業者に面談したうえで推薦対象を決める。これまで認可申請中を含めて10社を推薦した。

同事務局は「環境に配慮した電力会社の契約数が増えれば、再生エネの比率は上がっていく。長期的に取り組んでいきたい」としている。(神元敦司、重政紀元)

- パワーシフト・キャンペーンなどが示す、環境を重視した電力会社を選ぶ際のポイント
- 電源構成などの情報を開示している
  - 電源の中心は風力、太陽光、小水力、バイオマス
  - 原子力発電や石炭火力発電は極力使わない
  - 地域や市民に根付いた活動を重視
  - 大手電力会社と資本関係がない
  - 親会社に石炭・石油会社がない